

市政ニュース

「一日も早く復旧しますように」 大雨による被災地・丹波市と福知山市に災害派遣

本市は、8月16日からの大雨で甚大な被害を受けた丹波市と京都府福知山市に、災害復旧支援のための職員を派遣しました。

丹波市には、8月18日から給水や廃棄物処理のアドバイスなどの支援を行いました。給水支援は現在も続けています。同市には、豊岡市社会福祉協議会の呼び掛けで、多くの市民ボランティアも駆け付けました。



▲丹波市内での支援活動の様子



▲福知山市内での支援活動の様子

本市と災害時応援協定を締結している福知山市には、19日から、廃棄物の処理や家屋被害調査などの支援を行いま

した。また、兵庫県建設業協会豊岡支部が、災害ごみ搬送支援のためにダンプ20台と40人を派遣しました。

今夏の一連の豪雨は、西日本などに大災害をもたらし、土砂災害の脅威を見せつけました。本市にも土砂災害警戒区域が1742カ所あります。これは、県内では、神戸市に次いで2番目に多い数です。

本市は、土砂災害の大きな危険を抱えたまちであること、を十分認識しながら、普段からいざというときに備え、早め早めの避難を心掛けることが必要です。

「百間は一見にしかず 大草原の国を体感」 「モンゴル国友好訪問使節団」帰国報告会を開催

本市とモンゴルの中学生は、隔年で相互に友好訪問を行い、交流を続けています。

今年も、本市が訪問する年に当たり、中学生7人を含む11人のモンゴル国友好訪問使節団を8月1日から8日まで派遣しました。

8月28日、同使節団の帰国報告会を開催しました。参加者は、現地の子どもたちとの交流や首都ウランバートルでのホームステイ、自然回帰に



▲稀少な野生馬タヒをすぐ近くで観察できた

取り組む野生馬タヒの視察や移動式住居(ゲル)での自然体験などを報告しました。

「開館から14年 人と自然の共生をPR」 祝 コウノトリ文化館入館者400万人達成!

平成12年6月に開館した市立コウノトリ文化館の入館者数が、9月13日、400万人に達し、記念セレモニーを開催しました。

400万人目の入館者は、愛知県春日井市から来られた古木敬次さんと初美さん夫妻。本市は、認定書を交付し、記念品を贈って祝福しました。敬次さんは「大変驚いたが、5人の孫に恵まれて幸せだが、



▲(右から)初めての来館で、400万人目となった古木初美さんと敬次さん

「主な市政の動き」

- 9日・豊岡市災害対策本部設置 (10日・廃止)
 - ・竹野・日高・出石・但東地域災害警戒本部設置 (10日・城崎設置、全地区廃止)
 - 11日・平成26年度ひょうご海外研修員受入れ(12日)
 - 18日・大雨被災地支援(丹波市、19日・福知山市)
 - 21日・兵庫県消防防災航空隊との合同水難救助訓練
 - 23日・東日本大震災被災による三条市への避難者「豊岡市お礼の旅」来訪
 - 27日・地域活性化モデルケース総合コンサルティング
 - 29日・第3回定例市議会開会 (9月26日)
 - ・第11回全日本一般男子ソフトボール大会(9月1日)
 - 30日・コウノトリ但馬空港フェスティバル14(31日)
- 【9月】**
- 1日・「永楽館歌舞伎公演」製作懇親会(大阪市)
 - 2日・最高齢者、最高齢夫婦祝 福訪問

感動、高校生同士の絆 3年間で得たものは大きい
福島県立いわき総合高校演劇部豊岡公演・今年「あひる月13」を上演

8月23・24日、城崎国際アートセンターで、いわき総合高等学校演劇部が、東日本大震災をテーマにした作品第3弾『あひる月13』を上演しました。

本市では、舞台芸術活動や地域との協働体験を通して、高校生たちの表現力・創造力を



▲城崎でPRをする地元高校生

育むため、平成24年の第1弾から今回まで「高校生アートプロジェクト」として取り組みました。

公募で集まった但馬の高校生たちは、ディレクターズ（実行委員）として、毎回、準備から片付けまで協力しました。

当日、会場は市内外からの観客でいっぱいになりました。

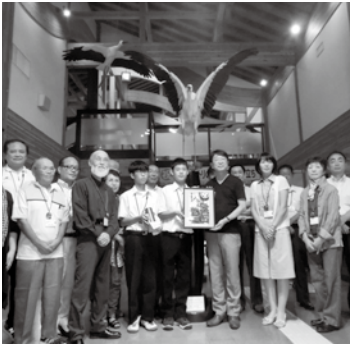
いわきで生きるリアルな日常を描き、今の気持ちを正直に、真正面から表現した演劇



▲『あひる月13』の一場面

かつて、豊岡市にも全国から手が差し伸べられました
東日本大震災の被災者・新潟県三条市に避難している方々がお礼に来訪

8月23日、東日本大震災の被災者で、新潟県三条市に避難している方々の代表10人が、



▲コウノトリ文化館で記念撮影

本市に来訪しました。

「さんじょう∞ふくしま

『結』の会」代表の佐竹 紀（おき）さんは「4年になる避難生活は言葉に言い尽くせない。復興を感じながらも原発では暗い現実がある。豊岡市からの

温かい支援で『忘れられていない』と思えることが励みになっていく」と話しました。

また、二人の中学3年生が「震災直後に豊岡市から新し

いランドセルが贈られてきた。迅速で驚き、みんながうれしい気持ちになった。豊岡市が第2のふるさとに思える」と話しました。

中貝市長は「水害の経験から、忘れられることのつらさは知っている。豊岡がコウノトリも住めるまちを取り戻したように、ふるさとを取り戻す希望を持ってほしい」とエールを送りました。

中貝市長の徒然日記 83

「この地じいのだ」

城崎国際アートセンターが好調です。県から譲り受けた城崎大会議館をどう使うか。迷った末に、舞台芸術用に無償で貸し出すことにしました。劇団などが滞在し、作品を制作する場として最長3カ月間、施設を無料で提供します。

世界各国から多数の応募があり、今年度は、日本を含む6か国、15の劇団の滞在・制作が決まっています。7月には俳優の片桐はいりさんらが、8月にはルーマニアのダンサーらが滞在しておられました。

9月は、日本を代表する劇作家平田オリザさんが、フランス人俳優らと約1カ月の滞在・制作中です。主演は、カーンヌ国際映画祭女優賞受賞者のイレレーヌ・ジャコブさん。

10月4・5日に世界初演がアートセンターでなされ、その後フランス、ヨーロッパ各地で公演がなされる予定です。

6月、日本劇作家大会を誘致しました。劇作家、俳優、ファン等が集まり、延べ7千

人を超える参加者で活況を呈しました。竹下景子さん、渡辺えりさん、佐野史郎さん、辰巳琢郎さんらも参加されました。「豊岡市長殺人事件」が起きたのもこの大会でした。

日本中から人々が豊岡に集まったこの期間中に、改めて感じたこと。それは、ここでのいいのだ、という確信です。

これまで、多くの人びとが「上り列車」に乗って故郷を離れ、そのほとんどは帰ってきませんでしたが。地方は衰退し、誇りも失っていききました。しかし今、豊岡は小さな世界都市に向けて着実に歩んでいます。コウノトリ野生復帰は世界から高い評価を受けています。山陰海岸ジオパークは世界的価値を認められました。アートセンターも輝き始めました。

素敵なところは世界にたくさんある、そのことは良く知っています。しかし、その上でなお、私たちは、豊岡でいいのだ。私たちはこの地に誇りを持ち、この地で決然と生きていくのだ。その覚悟を強く持ったのです。